

ART KISS LETTER

TITLE

第33回熊本市民美術展
熊本アートパレード

DATE

2021

2022

12.18^土

1.23^日

開館時間 10:00-20:00
(最終日は17:00閉場)

休館日 火曜日、年末年始(12月28日~1月4日)

本年度
テーマ

「むちやぶり」

出品数

245点



アートパレード
大賞

作品講評: 室山まゆみ

松永健志《乗ってみなはれ》

感覚的に好きです。お尻の側から描くことにより、まさに乗れそうです。乗れるものなら乗ってみると言っているようなこのタイトルは秀逸です。見る人に向ってのいいむちやぶり返しです。広いスペースにこの作品が一枚あるだけで、その場の雰囲気が明るくなるような力があると思います。

審査員講評

漫画家
室山まゆみ



©Muroyama Mayumi

「むちゃぶり」というテーマに対して考えた結果がさまざま見られ、とても楽しく審査をすることができました。インスピレーションを刺激されるような作品もありましたし、じっくり見ていると考えさせられるものもありました。アートパレード大賞以下の4賞については、いずれもテーマに対しての応答が見事で、かつ作品としての完成度が高いと感じたものを選びました。優秀賞と奨励賞については、制作に対するエネルギーや喜びが感じられるという点も基準にして選んでいます。私たちは普段から美術館に行くことが好きです。展覧会では、見ていて心地よいと感じるもの、自分たちの気に入る作品を鑑賞し、楽しみます。今回の審査も、まずはそのような私たちの自然なアートへの接し方によって作品を選びました。もちろん、それだけでは趣味的な偏

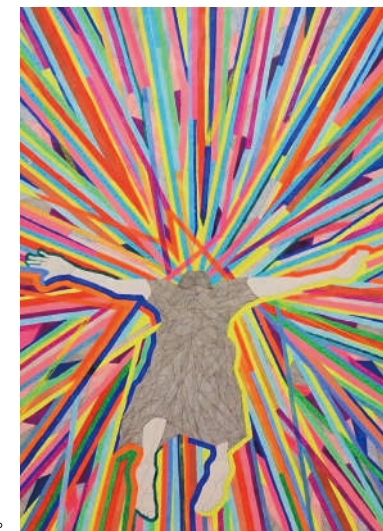
りが出てしまいますので、テーマに対する取り組み方、作品としての完成度、制作の背景にあるもの等も勘案して判断したつもりです。私たちは漫画家なので、職業柄、「漫画的な目線」をもってものを見てしまいがちです。出品作品のなかでも、やはりイラスト的なものは目を惹きました。しかし私たちは、漫画とアートは同一線上にあるものではないと捉えていますので、あえて「漫画的な目線」による評価軸から離れ、なるべく「アートを審査する」という姿勢で臨みました。その意味では、この度のアートパレード審査は、私たちにとっても「むちゃぶり」だったのです。むちゃぶりは世の中にある楽しさのひとつ。そのような楽しさを、出品者と審査員の双方が味わう機会となっていたら大変嬉しく思います。



優秀賞

佐藤昭《jump one》

映像的な作品です。カラフルな世界とモノトーンによる人物表現が対比的で、それによってこの人物が明るい未来を目指している感じがし、また新しい世界へと飛び込んでいく勇気も感じられました。



熊本市現代美術館賞



大畑義弘《文明》

身近なプラスチック製品を平面にコラージュし、一目で現代の問題をテーマにしていると分かります。人間の現代生活が地球へのむちゃぶりになっているのでは？という社会に対する強いメッセージ性は、本質に相応しいと思います。



井手宣通賞

福井由紀
《escape》

美しさが目立つ作品ですが、作品の物語を読むと「脱獄した囚人」とあり、そのギャップに驚かされました。一面のブルーによって、マリンスタイルと思っていたボーダー柄は、実は囚人服…。絵画としての仕上がりの高さも評価しました。



室山まゆみ賞

荒尾由紀
《翔べ、鶏》

この高さから翔べとはまさにむちゃぶりです。そもそも、どうやってこの鶏はこの岩の上に立てたのか？ここから翔んだあとの鶏は？前後のストーリーを想像して四コマ漫画が作れそうです。様々なストーリーを喚起させる作品だと思います。



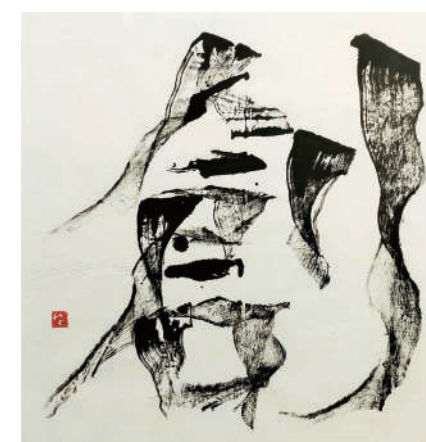
荒木宣男
《「歌って」と無茶ぶりされました》

漫画家として「よいな!」と思わせる作品でした。ドンガパチョ、エイトマン、サスケ、鉄人28号、カムイ…。ある年代より上の人は、思わず頷きながら見てしまう作品ではないでしょうか。



大勝工炉(勝木亮)
《愛用具(パーツ)の軌跡》

パッと見た時には作品に思えませんでした(備品かと思った)、よく見てみると構成要素が面白く、次第にその魅力が感じられてきました。テーブルとして実際に家にあったら楽しそうです。テラスに合うかも？



鍛冶屋春花《そうぞう》

書道好きの姉 眞弓の推し作品です。筆運びによる文字の立体感、墨のバランスが非常によいと思いました。



kou《カンショウ》

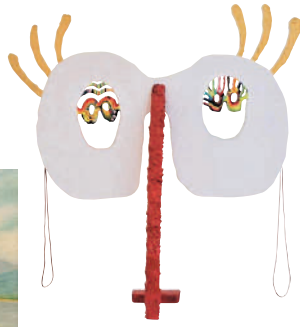
アイデアが非常によかったです。シャレもきいていました。廃棄物を素材にしている点はとても現代的だと思いました。しかもこの緩衝材は固くて扱いづらいはず。自分もやってみたい!やれるかも!と思わせる作品です。

奨励賞



森田勇治《浮島さん》

温かさや安らぎが感じられました。荒んだ気持ちが癒されるような作品。少し離れてみた時によりよく見えます。



おおつきゆき
《身長20mの望が
人気者になるための伊達めがね》

あり得ないことを考えて、それに対する答えもまた、むちゃをふっつてよかったです。「巨人がかけるメガネ」という設定が優れていました。造形的にもとても面白く仕上がっています。

久枝一久《出会い》

アシカと少女が同じ服を着ている!?!と錯覚するガラスの映り込み。偶然だったのかもしれませんが、いいむちゃぶりを感じたので選びました。



志垣真理子
《しまった! どうしよう?》

一瞬ドキッとさせられました。背景にある多くの「他人の目」と、画中の人物が自分の目を押さえている描写は、深いテーマを感じさせます。



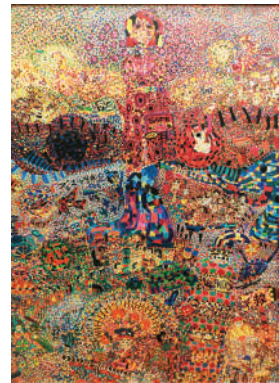
東志朗《お手を拝借》

いいむちゃぶりだなと思いました。子どものコートの描き方が際立っていました。



岡松トモキ
《宿題少女
—Homework girl—》

心地よさと不思議さを同時に感じました。インパクトが強かったです。どのカットも絵として楽しく、見飽きない作品。無音でも十分かもしれません。



吉本雅俊《エル・ロコ》

色に圧倒されました。ものすごい色数です。エネルギーに乾杯!

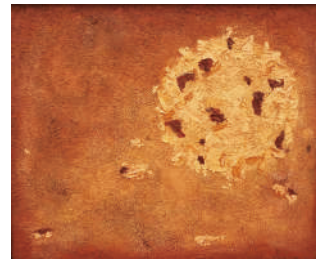
内田珠子(ムーミンたまこ)
《ムーミンハウスへ
ようこそ》

とにかく「頑張った感」が強いです。その愛の詰まり方をガンガン感じました。



松本彩花
《Euglena
~can do anything!~》

ポスターとして出来がよいです。「最強」ならば選ばねば!という気にさせられました。



寺本琴音
《nuts cookie bomb》

妹、真里子は作品タイトルを見るまでお菓子であることが分かりませんでした。姉、真弓はタイトルを見なくても分かりました。世界感も理解できました。優越感をありがとう。

オーディエンス賞

オーディエンス賞は来場者の投票により選出される賞です。本年は同票数により史上初めて3点が同時受賞となりました!

内田珠子
(ムーミンたまこ)
《ムーミンハウスへ
ようこそ》

奨励賞とダブル受賞!



福山裕教
《熊本LOVE
スイッチ》

ながたあさみ
《(うろ覚え)
思い出の下通》



熊本市現代美術館

Contemporary Art Museum, Kumamoto

ART KISS LETTER Vol.101(2022年1月) [次号は2022年2月発行予定]
編集: 佐々木玄太郎 岩崎美千子 デザイン: apuuroot
印刷: シモダ印刷 発行: 熊本市現代美術館 www.camk.jp
〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 Tel 096-278-7500

[来館者の皆さまへのお願い] 新型コロナウイルスの感染拡大を防止し、美術館を安全にご利用いただくため、ご来館の際には手指消毒・咳エチケットのご協力をお願いいたします。また、発熱・咳・くしゃみ等の風邪の症状がある方は、ご来館をお控えください。

